



モノ、ヒト シゴト

TOYOKAWA PRODUCE

豊川市が誇るモノづくりと、それに携わるヒト
を紹介します。

VOL.
15

一打を支える職人技

株式会社白物
製造部長・岩瀬 崇典さん

木製バット専門メーカー

昭和29年創業以来、木製バットの生産を手掛ける白物。年間約10万本に上る出荷量は業界の6割を占め、国内トップシェアを誇る。

「一本のバットに、木材の選別、切削、塗装など、各工程を極めた職人技が凝縮されている」と、製造を統括する岩瀬さんは話す。

理想を叶える技術

バットの製造は機械化が主流となり、量産が可能となった。しかし、プロ用のバットは選手が求める形状やバランスを実現するため、現在も職人の手で作られている。

使用される木材は、メイプル、ホワイトアッシュ、アオタモなどの約10種類。硬さ、密度、しなり具合といった性質が異なるため、選手のプレースタイルや好みに合った木材を選別する。その後、選手の要望を細かく聞き取りながら、最適な形状に削り出していく。要望の中には、「飛距離を出したい」「振り抜き

やすくしたい」など感覚的なものも多い。それらを形にするためには、長年の経験で得られるバット作りの知識が必要となる。極めて緻密な切削と試打を繰り返して、選手が思い描く理想のバットへと近付けていく。

「0.1ミリの違いが選手の活躍に直結する。試行錯誤の末に出来上がったバットで選手が活躍した時、職人たちは達成感を感じている」と語る。

職人一人ひとりによって支えられる、理想を形にする技術。この技術により生まれるバットを求め、多くの選手が訪れる。

自社ブランドで世界へ

平成30年から、アメリカを拠点として、オリジナルブランドを展開している白物。「世界一バットメーカーが多い、野球の本場での挑戦。自社が持つ『精密さと美しさ』の強みを世界中の方に知ってもらいたい」と岩瀬さんは話す。世界で認められるバットメーカーを目指し、職人たちの技術探究はこれからも続く。

株式会社白物

牛久保町常磐69

1954年創業。野球、ソフトボール用の木製バットを製造。年間約10万本に上る出荷量は国内トップシェアを誇る。2018年からアメリカを拠点に、オリジナルブランドを展開している。



1 10種類以上の道具を使い分け切削する 2 材料となるメイプルやホワイ
トアッシュなど、約10種類の木材を常時5万本以上保管している 3 海外
向けに販売しているオリジナルブランド「SPARK」のバット